

1 年 みぶりでつたえる

1, 単元名 「みぶりのはたらきを」 教材名 みぶりでつたえる

2, 単元目標

- みぶりのもつ働きに気をつけながら読み、みぶりが気持ちや考えを伝える大切なものであることを理解できるようにする。
- ・事柄の順序などを考えながら内容のたいたいを読むこと。
- ・事柄の順序を考えながら、相手にわかるように話すこと。
- ・大事なことを落とさないようにしながら、興味を持って聞くこと。

3, 単元について

1年生の子供たちは、物まねをしたり体を動かしたりする事が大好きである。学習や日常生活の中でも、豊かなしぐさや表情で自分の思いを率直に伝えようとする。しかし、子供たちは「みぶり」が言語的な伝達能力を持ち、ときには言語表現以上の複雑な心理を表すことができることに気づいているわけではない。そこで、この学習をとおして「みぶり」が相手とのコミュニケーションをより豊かにするものであることに気づき、より豊かな関わりをもつ手だてとして、みぶりを活用できることをねらって、本単元を設定した。

○学習指導計画（12時間扱い）

次	時	学 習 活 動	○ 評 価 支 援
一	1	・ゼスチャーゲームをしながらみぶりの学習への意欲を持つ。	ゼスチャーゲームをすることで、みぶりに対する関心を高める。
	2	・単元について話し合い学習の課題をつかむ。	○学習への意欲がもてたか。
二	3	・本文を読み、どんなみぶりについて書かれているかをつかむ。	挿し絵と「みぶり」を対応させながら読むようにする。
	4	・段落ごとのみぶりとその伝わり方について、自分の体験と結びつけながら読む。	挿し絵を大型カードにしておく。
	5		○段落ごとのみぶりが読みとれたか。
	6	・みぶりの働きについて筆者の考えを確かめる。	子供の気づきを基に、随時「みぶりことばあつめ」を行い活用しやすくする。
三	7	・「みぶりことば」集めをする。	○自分の体験と結びつけながら、読むことができたか。
	8	「みぶり」をつかってお話をしよう	絵や言葉でカードに書く。
	9	・伝えたいことを見つける。	○伝えたい話題やそれにあつたみぶりことばを考えることができたか。
	10	・話題にあつた「みぶりことば」を考える。	今までに出された「みぶりことば」を参考にしよう助言する。
	11	・グループで発表の練習をする。	○みぶりことばを入れて表現できたか。
	12	・「みぶりことば」を入れて発表しあう。	○友達のみぶりを見てみぶりことばのよさが理解できたか。
		・友達の発表を聞いて、よかったことや感想を話し合う。	

4 , 本時の展開 (4 / 1 2)

○ 本時の目標

- ・形式段落 ~ を読み、みぶりが言葉の代わりをしたり、伝えたいことがはっきり伝わったりするはたらきがあることがわかる。
- ・理解したことをもとにみぶりを使って効果的に表現しようとすることができる。

学 習 活 動	支 援 ・ 指 導	○ 評 価
1 , 本時のめあてをつかむ。	みぶりを使いながら話し、みぶりの役割を想起できるようにする。	○ 本時のめあてをつかんだか。
みぶりにはどんなはたらきがあるかよみとろう		
2 , 学習範囲を読み、みぶりについて読み取ったことを話し合う。	さし絵を参考にするよう助言する。(さし絵カードを用意)	○ みぶりについての叙述を見つけられたか。
・各自で音読。 ・みぶりについて書いてあるところに印を付ける。	みぶりを読み取れない子どもには個別に助言する。	
・読みとったみぶりを発表する。 ・それぞれのみぶりにはどんなはたらきがあるか、話し合う。	みぶりの働きの違いに気付くよう発言を板書で整理する。 ● 次の2点を確認する。 * ことばの代わりをする * ことばと一緒に使うとはっきり伝わる	○ それぞれのみぶりのはたらきを読みとれたか。
3 , みぶりことばを見つける。	ワークシート	○ みぶりことばを見つけられたか。
4 , 見つけたみぶりをペアになってやってみる。	見つけられない子どもには何気なくやっているしぐさを示す。(例 もういらない、お腹いっぱい ラッキー o k)	○ 互いにみぶりを使って伝え合ったか。
5 , 学習を振り返る。	1 ~ 2 ペアを指名する。	
		○ 目当てに沿って振り返れたか。

5 , 本時の展開 (1 1 / 1 2)

○ 本時の目標

- ・身近な話題でみんなに伝えたいことを、集めたみぶりとことばをつかって、効果的に表現することができる。
- ・友達の発表を聞いて、互いのよいところに気づき伝えることができる。

学 習 活 動	支 援 ・ 指 導	○ 評 価
1 , 本時のめあてをつかむ		
	「みぶり」を使ってお話会をしよう	○めあてがつかめたか。
2 , 「みぶり」を使ってお話会をする。 ・各自で、練習する。 ・発表するときの観点、聞くときの観点を確認する。	どんな話をするのか、教師は事前に把握し必要に応じて個別に支援する。 一人でやってもペアでやってもよい。 お話会の場の環境づくり。 ●「お話」は2文～3文。 《発表の観点》 ・大きな声で最後まで。 ・みぶりをつけてわかりやすく。 《聞く観点》 ・話す人を見ながら最後まで。 ・みぶりはわかりやすかったか。 ・よかったところを教えてあげよう。	○発表の準備が整っているか。 ○発表の観点、聞く観点が理解できたか。
3 , 友達の発表でよかったところを伝え合う。 ・数人の相手をきめておき、話が終わったら「ニコニコシール」を渡し、相互評価する。		○友達のよさを見つけたか。
4 , 学習を振り返る。	ことばで伝えられなかった友達には「ニコニコシール」で伝える。	○自分のよさに気づいたか。